

P-1-8

鍼治療における頸部の埋没鍼が脳内に迷入していた一例

A case of acupuncture needles migrating into the brain through the carotid artery.

○鈴木 強, 青木 正典, 丸野 元彦

医療法人 行岡医学研究会 行岡病院 脳神経外科

We report a case in which acupuncture needles penetrate the carotid artery and reached intracranially. A 78-year-old woman was referred to the Department of Neurosurgery due to sudden severe headache frequently. She complained of asthma more than 30 years previously and had been treated by acupuncture in neck. X-ray image showed some needles in the neck and brain. Computed tomography (CT) revealed that the needles are present in the internal carotid artery and middle cerebral artery.

【はじめに】

近年、がん緩和医療における補完代替医療の役割も認められつつあり、痛みや痺れに対する鍼治療も注目されている。今回、我々は 30 年以上前に受けた鍼治療が原因と思われる頭蓋内異物を経験したので報告する。

【症例】

78 歳の女性。突然の激しい頭痛にて何度も救急受診している。45 歳の時に喘息治療のため遠方に出向き、頸部から肩にかけて鍼治療を受けたという。なお体内に鍼の先端を残す方法（埋没鍼）であった。59 歳のとき対象物が揺れるという眼症状があり近医眼科を経て脳外科に紹介となった。レントゲンおよび CT 撮影にて金属密度の糸状の物体が、頸部軟部組織内、右頭蓋内に複数認められた。また脳波では、右前頭側頭部中心に棘波を認めた。その後も、上肢の脱力やだるさを訴えていたが、時々、強烈な頭痛発作が起こるようになった。上肢の間欠的に現れる感覚障害はてんかんによるもの、発作的に起こる激しい頭痛は頭蓋内血管内にある鍼の刺激によるものと推測された。現在も抗てんかん薬、鎮痛薬による治療を継続している。

【まとめ】

鍼治療による有害事象は数々報告されているが、本症例のように肩や頸部に打った鍼が動脈に迷入し、脳内まで到達して症候性となっている例は稀と思われる。文献的考察とともに報告する。